

JELA NEWS

ジェラニュース 第67号

2025年8月15日 発行

発行責任者 渡辺 薫

公益財団法人 JELA 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 TEL.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援事業 / 世界の子ども支援事業 / 奉仕者育成事業 / 緊急災害支援事業

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書25章35～36、40節)



貴重な「出会い」と「学び」

カンボジア・ワークキャンプ2025 参加者レポート

CONTENTS	世界の子ども支援	カンボジアに14棟目のプレスクールを建設中(P3) / カンボジアの小学校やプレスクールのために文房具を募集します! (P3)
	難民支援	「世界難民の日」JELAの取り組み(P7) / 「フィロクセニア奨学金」2026年度奨学生募集(P7) / 「JELAハウス」管理人募集(P7)
	奉仕者育成	カンボジア・ワークキャンプ2025 参加者レポート(P4,5) / ディアコニア元奨学生 三浦 太一 さん「視野を広げ、生きる意味を探す学び」(P6) / JELAディアコニア奨学金 2026年度募集(P6)
	その他の記事	「回顧と展望」第1回 中川 浩之 氏(P2,3) / 秋のチャリティ・イベント「人生の最期に何を語り合えるのか」告知(P8) / 「川柳ひろば」最終回 入選句発表! (P8) / 支援者一覧(P8) / 編集後記(P8)

回顧と 展望

第1回 中川 浩之 氏 (JELA元理事長)

このコーナーでは、JELAの運営に長らく関わられた方からメッセージをいただく新企画「回顧と展望」をお届けいたします。第一弾は20余年にわたりJELAをリードしてくださった中川浩之氏です。中川氏はJELAの理事長（2006年～2016年）や評議員（2021年～2025年3月）を歴任されました。当記事は、2025年6月18日に中川氏に事務局がインタビューを行ったものを文字起こししたものです。

——本日はよろしくお願いします。20年あまりJELAをリードしてくださいましたが、何が一番印象に残っていますか。

大変優秀なスタッフたちと仕事することができて感謝しています。一番の思い出は、2009年の創立100周年の記念イベントですね。渋谷の東急ホテルで大々的に行いました。当時はアメリカの宣教師の方も多くいらっしやってJELAのルーツを知り良い機会になりました。

——どのようにJELAの活動に加わったのですか。

かつては、私が通っている日本福音ルーテル市ヶ谷教会と同じ建物の中にJELAのオフィスもありました。当初は何をしている団体だろうと気になっている程度でしたので、後年、理事長になるとは夢にも思っていなかったです。私が教会の信徒常議員の時に、長尾博吉牧師が教会の事務局長をされていました。長尾先生の誘いでJELAに関わるようになったと思います。最初の大きな仕

事は、「JELAミッションセンター」の建築委員会で、毎週建設現場近くのビルの一室で行われていました。建築業者、設計者などと長尾先生と私で工事の進捗を毎週見守っていましたね。



——中川さんが理事長の時に現在の公益事業に続く活動が本格化したと思いますが、どのように関わられたのですか。

私は広告代理店の出身だったこともあり、広報に力を入れました。今でも使われているJELAのスローガン「キリストの愛で隣人に仕えます」やJELAのロゴマークの作成はいい思い出です。ロゴマークの配色は、日本人の好きな藍色と朱色の組み合わせでできています。Eの部分は十字架と星のイメージです。JELAのウェブサイトも作りまし、広報委員会も開設して後進の育成に道筋をつけました。

——JELAのロゴは普遍的なデザインだと思います。多くの人に浸透していますよね。

今思うとEの十字架（星）の横の線が少し細いかな。ロゴを小さくした時に線が見えなくなる可能性がある

と思います。それでもJELAのロゴマークは私の代表作ですね。

——広報でいうと本紙「JELA NEWS」も創刊時から中川さんがデザインされていますよね。

「JELA NEWS」創刊（2003年8月号）から52号（2020年8月）までの17年間、編集に関わりました。印象に残っているのは、インド・ワークキャンプの写真です。日常の様子が出ていていい写真だと思いました。また、賛助会員を募り、200名の方に加わってもらいました。多くの人にJELAを伝えることができたことは自慢できることかと思います。

——広報関係ではチャリティコンサートもありましたね。

全国の教会を巡り、いろいろな人と知り合うことができてよかったです。そこで知り合った方が、賛助会員や後に役員などになってくれてJELAを支えてくれました。演奏者ではフルート奏者の上野由恵さんと6年間ご一緒させていただきました。彼女とはチャリティCD「Amazing Grace」を制作し、コンサート会場で販売もしました。一般の人でも知っている讃美歌が多いのでいい選曲だと思います。

——全国ツアーで多くの方にJELAをPRしたのですね。上野さんのチャリティCDの音源は、音楽配信サービス（YouTube Music、Spotify、Apple Musicなど）でも聴くことができます。その収益はJELAの寄付金になりますので、ぜひ多くの方にも聴いていただきたいです。

フルート奏者・上野由恵さんによるチャリティCDの音源についてはこちらのブログ記事をご覧ください



——世界の子ども支援、難民支援、奉仕者育成の事業がありますが、印象に残っていることはありますか。

世界の子ども支援事業ですね。ブラジル、インド、カンボジアを訪問して、普通の旅行では行けない場所に行くことができて、そこで現地の人々に会うことができました。特にブラジルの訪問は印象に残っています。2008年11月、リオグランデ・ド・スル州ポルト・アレグレに、日本政府から得た約1000万円の助成金によってCentro Diaconal Evangélico Luterano (CEDEL福音ルーテル社会奉仕センター)が完成し、とても嬉しかったのを覚えています。また、アジア学院の入学式に参加して、何度か挨拶をさ

せていただきました。農村リーダーを目指して来日した人たちにエールを送ることができたと思います。

——これからのJELAに期待することについて教えてください。

教会とJELAが協力して何かできたらいいですね。



2015年、アジア学院のイベントに参加する中川理事長(当時、右)

——カンボジアの支援を教会と協力して実施できないか話を進めています。共に「キリストの愛をもって隣人に仕える」理念で一致できるのがいいです。

それは楽しみです。古屋理事長は大変よくJELAを運営してくれています。感謝しています。

——読者へのメッセージはありますか。

公共の媒体を個人的に使ってはいけません。(笑)

——中川さんらしいお言葉ですね。本日はありがとうございました。

世界の子ども支援

カンボジアに14棟目のプレスクールを建設中

JELAは世界の子ども支援の一環として、カンボジアの子ども支援に力を入れています。特に教育環境の整備に注力しており、2012年からプレスクール(日本の幼稚園・保育園に該当する教育施設)の建築事業を継続して行っています。今年は14棟目となるプレスクールが、カンボジアのパートナー団体「Lutheran Hope Cambodia Organization (LHCO)」とともに選定した、コンボンスプー州アオラル地区タサルコミュニティのダウンチョン村で建設中です。

ダウンチョン村は人口905人の村で、288世帯が暮らしています。人口の内304人が子どもで、その中の84人が2～6歳でありプレスクールに通う可能性のある子どもたちです。ダウンチョン村は近くの町まで35km離れており、道路事情も悪ことから公共サービスを受けることが難しい地域です。

プレスクールと併設するトイレの建築費用8,700ドルの内、JELAは校舎の費用7,700ドルを提供します。トイレの建築費と整地の費用は村人

が負担します。6月には建設予定地の整地と盛土が行われました。

またLHCOの指導のもと、プレスクールの建設品質管理委員会が村に組織されました。同委員会は建設の状況を見守りつつ、将来は建物の維

持管理なども担っていきます。

JELAはLHCOと協力して同地の子どもたちの教育環境の改善のために活動を続けてまいります。世界の子ども支援事業へのお祈りとご支援をよろしくお願いいたします



プレスクール建設予定地



建設品質管理委員会の会議の様子

カンボジアの小学校やプレスクールのために 文房具を募集します!

JELAではカンボジアの小学校やプレスクールの子どもたちが使う文房具を集めています。未使用、もしくは未使用に近いクレヨン、色鉛筆、鉛筆などがあればJELAにお送りください。お送りいただいた文房具は、JELAスタッフがカンボジアの小学校やプレスクールに直接お届けします。

【文房具の送付先】

〒150-0013

東京都渋谷区恵比寿1-20-26

公益財団法人JELA 支援物資係

【募集期間】 2025年9月30日まで

お名前、ご住所、電話番号もご封ください。皆様のご支援をお待ちしています!

カンボジア ワークキャンプ 2025

2.12 ~ 2.22



「カンボジア・ワークキャンプ2025」を2月に開催しました。7名の大学生がキャンプに参加し、チャプレンとして日本福音ルーテル高蔵寺教会・復活教会の徳弘浩隆牧師が同行しました。一行はJELAが建築したプレスクールで、壁の塗装や児童との交流、併設された小学校の菜園整備など

のボランティアワークを行いました。また、トゥールスレン虐殺博物館やキリングフィールドを訪問し、ポルポト政権下の虐殺の歴史を学ぶスタディツアーにも参加しました。キャンプでの体験を綴った参加者たちのレポート（抜粋）をご紹介します。※年齢はキャンプ当時のもの

クニョム スロランニヤ カンボジア (I Love Cambodia) 古屋 若菜 (22歳)

今回は、私にとって3回目のワークキャンプで、カンボジアは2回目の訪問でした！今回参加して



改めて実感したことが2つあります。まず、歴史を学ぶことの大切さについてです。博物館や資料館を再び訪問し、教科書や動画で眺めるだけでなく、自ら現地を訪れ、歴史を肌で感じることが重要だと改めて痛感しました。そうすることで、私たちは「同じ過ちを繰り返してはならない」という思いを胸に刻み、生きていくことができるように思いました。

また、カンボジアで出会った方は皆、異国から来た私たちをまるで家族の様に受け入れ、「安心して活動できるか」「食事はしっかり取れているか」など細やかに気遣ってくれました。今回は、2年前にも感じたカンボジア人の温かさを再確認したキャンプでもありました。来月には新社会人として新たな一歩を踏み出します。今度は自分が「与える側」として、これまでの経験や体験を活かしていけるよう努力したいです。

私が今回のカンボジアワークキャンプで得たものは人との繋がります。その中でも特に現地の子どもたちと触れ合った時間がとても印象に残っています。私が出会った子たちは決して裕福とは言えませんでした。靴を履いていない子や、やむを得ない理由で学校にいけない子などもいました。しかし、その子たちも含めて皆とても元気で純粋でした。異国から来た私をすぐに受け入れて、手を引いてコミュニケーションをとってくれ、お互い言葉はわからなくても笑顔とジェスチャーで通じ合う事ができました。



キャンプに参加する前は、地元や学校など私の周りにいる人たちだけの小さなコミュニティが、私の世界でした。そこでは言葉も通じ合って、お互いに察する事もできるはずなのに、なぜ人間関係で悩んでしまうのかだんだんと考え始めました。もしかしたら近くにいるが故に、互いを知ろうとする行動が減り、すれ違いがあったのではないかと考えました。もう少し自分の世界を広げて、多くの人と繋がりたいと思いました。

AWESOME CAMBODIA 千原 茉莉乃 (20歳)

疑問に思う大切さ 笹山 百合菜 (19歳)

カンボジアの学校や児童養護施設の見学、農村部の家庭訪問など、旅行では経験できない多くのことを



経験する事ができました。特に学校訪問では、日本とはまた違う授業のシステムや、施設内を見る事ができ、新鮮で楽しかったです。そこに通う子どもたちが英語で話しかけてくれたり、遊びに誘ってくれたり、色々教えてくれたりととてもいい交流ができました。また、カンボジアの虐殺の歴史を学ぶスタディツアーでは、自分が信じる正義が時に正しくなく、正義は凶器になりうることを感じました。だからこそ、私たちは常に自分たちがやっている事に対して疑問を持って、取り組むことが大切だと気付かされました。

1日の最後にあるディボーションでは、御言葉を通して1日を振り返る事で、神様との時間を過ごす事ができました。クリスチャンとして神様との向き合う時間が、今まであまりなかったのですが、今回のキャンプを通して、ちゃんと神様と向き合うきっかけになったと感じています。また、ノンクリスチャンの人とも聖書について真剣に話せることもとても貴重な経験でした。

カンボジアで育まれた心 桐原 安那(19歳)

私は今回のキャンプを通して、特に感銘を受けたことが二つあります。一つ目は、宗教や歴史的背景を考慮することの重要さです。障害を抱えて生まれた子や結婚前に妊娠した女性に対する考え方など、無宗教の私にとって理解できないこともありましたが、生まれ育った環境やバックグラウンドによって、価値観が大きく異なることを学びました。また、ポルポト政権の虐殺の歴史は、今なお現地の人々の深いトラウマとなっていて、その歴史を知ったうえで見るカンボジアの印象は、以前と全く異なるように感じました。



二つ目はディボーションの時間を通しての学びの多さです。私は胸の内を誰かに見せることがとても苦手で、他のメンバーのようにうまく分かち合えず、ディボーションが正直苦痛に感じた日もありました。しかし、ディボーションで終える毎日を通して、その日経験して感じたことを言葉にすること、そしてそれを誰かに伝えようとするのが、こんなにも意味のあることなのだと初めて気づくことができました。

試練も神様から与えられたもの 新井 穂果(20歳)

今回のキャンプテーマは「どうして神様がいるのに？だって神様がいるから！」というものでしたが、私はキャンプ中に何度も「どうして神様がいるのに？」と感じました。虐殺博物館に行った際にも、どうして神様がいるとしたら、この様な残



虐なことが起こったのだらうと思い、物売りの子どもを見た際にも、神様はどうしてみんなに平等の機会を設けてくれないのだろうかと思いました。

しかし、「辛いことがあって、なんで神様がいるのに？と思うこともあるが、それもまた、神様が私たちに与えた試練である」という徳弘牧師の言葉を聞いて、神様は私たちを見捨てたわけではなくて、さらに強くしようとしてくれていると思え、少し救われました。時にその試練は厳しすぎるものもありますが、それもまた神様が私たちに与えたものだと思えば乗り越えることで、一つ成長できると私は信じています。

全ての人と隣人になるには 野左根 希歩(21歳)

昨年のインドワークキャンプに続き、2回目の参加でした。今回のワークキャンプは、施設見学や現地の方々との交流が主で、現地の小学校で出会った子どもたちや、同じボランティアに来ていた同年代の留学生、現地のガイドさんやゲストハウスの方々など、沢山の出会いと別れを経験しました。その中で、「隣人になる」とはどのような事なのか考え、物理的に隣にいても隣人にならない事が多い世の中で、それでも心を通わせ、お互いを愛することが隣人になるという事なのではないかと思いました。もしそうであれば、カンボジアで出会った方々と別れた今、たとえ隣にいらなくても、いつまでも隣人として繋がっていられるのではないかと感じました。お別れは悲しかったですが、その分、沢山の皆様との素敵な出会いがあり、参加する事ができて良かったと心の底から感じています。現地で出会い、別れた方々とも、隣人としてお互いの心の中に生き続けられますように。



近くて遠い彼女と私 安土 真理奈(22歳)

旅の最後に、重度身体障がいの子とその母親に出会いました。「どうして」神様がいるのに彼女は自由に動くことができず、



「どうして」私は日本から来て彼女の横に座っているのだらう。遠くて近い彼女に、私は何をすればいいか分かりませんでした。その時、ディボーションで徳弘牧師から言われた「だってあなたがいるから」という言葉が、小さな私に大きな力をくれました。ノンクリスチャンの私にはまだ、神様がいるのかはわからないけれど、今彼女の横には私がいて、一緒にお菓子を食べて、笑い合っている。言葉はわからないけど「私がいる」ことに喜んでくれているように感じ、「私がいる」ことに、何か意味を生み出せたと思いました。

沢山の「どうして」を考えるディボーションの時間は、私にとってかけがえのないものでした。神様もいるし、あなたもいるし、私もいる。何かを大きく変える強い力は、弱い私にはありません。それでもカンボジアでの経験を忘れず、隣の人から愛したいです。

参加者レポート全文は
JELAニュースブログで



来年(2026年)2月は
インド・ワークキャンプ
を開催予定!

募集要項を秋ごろに
ウェブで公開します。

お楽しみに!

視野を広げ、生きる意味を探す学び

JELAディアコニア奨学金 元奨学生 三浦 太一 さん

「JELAディアコニア奨学金」を2021年から受給し、東京国際大学・国際関係学科で学んだ三浦太一さんが、今年3月に卒業されました。三浦さんを4年間応援してきたJELAにとって、本当に大きな喜びです！

三浦さんは子ども時代の大部分をフィリピンで過ごしましたが、自分の将来を考えて18歳の時に再来日されました。そして言語の壁、文化の壁、経済的な壁などを乗り越えて大学に進学し、今日に至ります。就職活動を経て、4月からは新社会人として活躍しています。このたび、大学生生活の振り返りと、JELAの支援への感謝の言葉をお寄せくださいました。

4年前に東京国際大学に合格し、学費のことや自分の能力、それに自分の年齢、そして大学に行く意味などでたくさん悩んでいました。入学金を支払う能力がなく、大学に延長を依頼しましたができず、ローンも審査に落ち、希望は薄く感じました。

困っていた時に地元のカトリック教会でお世話になっていた方に連絡して、学費のことなどを助けてもらい、それがJELAに出会うきっかけにもなりました。大学進学について、「行ったほうがいいよ」と応援してくださった方もいれば、「行く意味がない」とアドバイスをしてくださる方もいました。いろいろ考えた結果、私は入学することにしました。

入学直後の頃はコロナ禍でもあり、そして自分の計画性不足でいろいろと苦労しました。自分の条件に合ったアルバイトを見つけるどころか、アルバイトの応募自体がほぼなかった頃でした。諦めることなく数週間後、アルバイトを見つけることができ、生活に余裕を持つほどではなかったのですが、自立することができたのは確かです。やがて勉強にも生活にも慣れることができ、いろ

いろな友達や教師に出会うことができました。大学でひとつ学んだことは、人とコミュニケーションを取ることで視野も広がる、ということです。他人の経験や意見に左右されるのではなく、自分の人生や将来の参考にできると学びました。



大学では優秀な学生がいろいろな国から来ており、自分のモチベーションにもなりました。自分の国の問題を解決しようとする学生や、世界の問題をいろいろ考える学生も在籍していて、プレッシャーを感じながら自分も考えなければいけないと

感じました。学業のために勉強に熱心に取り組んでいましたが、勉強すれば勉強するほど世界の問題をたくさん知ることができ、地球のどこかに困っている人がいると知り、直接助けることはできませんが、人間としてどう考えればいいのか、どう行動すればいいのか、考えることができるようになったと思います。例を上げると、卒業論文で課題にしていたフィリピンの麻薬戦争のことがあります。その問題の解決に直接貢献することはできませんでしたが、意見を発信することができたと思います。将来は直接携わって、世界のいろんな問題の解決に貢献することに努めたいと思っています。

4年間もかかりましたが、大学に行く意味を知りました。それは、これから生きる意味を探しやすくなる、ということです。大学で学んだことを社会や自分の人生で活かして成長していきます。JELAのおかげで大学に通うことができた感謝の気持ちを忘れず、次世代の方々にも何か力になれるように働いていきたいと思っています。4年間本当にお世話になりました。誠にありがとうございました。

JELAディアコニア奨学金 2026年度奨学生 募集要項(抜粋)

I. 奨学金の特徴

給付金額：年間120万円以内（原則返済不要）
給付期間：最長4年間（支給開始は2026年度）

II. 奨学生の資格

次のいずれかに該当し、かつ就学・研修に要する費用の支払能力が不十分である者。

1. 社会と人々に仕えることを目的とし、大学等において学ぶ者。
2. 国際社会への貢献を目的とし、大学等において学ぶ者。
3. キリスト者としての成長を目的とし、大学等において学ぶ者。

III. 募集スケジュール

応募締切：2025年10月31日

書類審査：2025年11月中旬

面接審査：2025年11月20日・21日のいずれか

IV. 応募方法

オンライン申請のみ
（専用フォームにて必要書類をアップロード・送信）

奨学金の詳細、
募集要項全体は
JELAウェブサイトで



「世界難民の日」JELAの取り組み 今年もブルーライトアップとオンライン動画を公開！

6月20日は国連の定める「世界難民の日（World Refugee Day）」です。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）はこの記念日に合わせて、難民への理解を深めるために日本各地のランドマークを国連カラーのブルーにするPR活動を行なっています。JELAはこの活動の趣旨に賛同し、昨年からブルーライトアップを行っています。

今年は6月9日から27日まで、JELAミッションセンター（東京・渋谷区）をブルーにライトアップしました。昨年よりも電球を1000球増やし、建物の1階と2階に加え、入口前の樹にも青の電飾を設置しました。6月という季節外れのイルミネーションに、道行く多くの人々が足を止め、ブルーライトアップの趣旨を説明する立て看板にも目をとめていました。

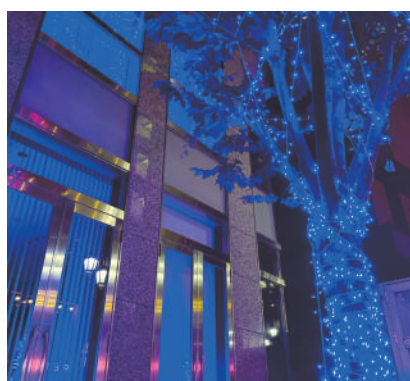
JELAはこれからも毎年6月にブ

ルーライトアップを続けていく方針です。時期が合いましたら是非お足運びください。

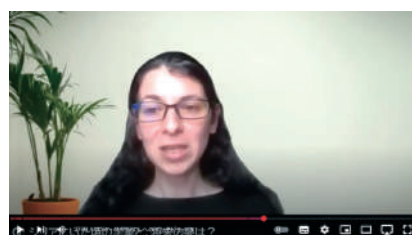
また、世界難民の日に関連して、JELAのYouTubeチャンネルに「難民留学生」として来日したシリア出身のスザンさん（UNHCR・CRCP難民アドバイザリーメンバー）の動画「シリアの今とこれから～女性の視点から」を公開しました。動画内で、スザンさんには日本に来ること

になった経緯、現在の活動、シリアにおける女性をめぐる状況などについてお話しいただきました。昨年12月にアサド政権が崩壊し激動のただ中にあるシリアについて、また難民の受け入れ全般について、関心を持っていただくきっかけとなればと考えております。ぜひ多くの方にご視聴いただければ幸いです。

JELAの難民支援事業を引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



ブルーライトアップで彩られた
JELAミッションセンター



動画に出演したスザンさん



QRコードから
動画をご視聴
いただけます

難民のための「フィロクセニア奨学金」 2026年度奨学生募集中！

JELAは現在、日本に住む難民のための奨学金制度「JELAフィロクセニア奨学金」の奨学生を募集しています。採用（合格）の場合、2026年度から支給を開始します。応募締切は**2025年9月末（必着）**です。

難民やそれに準ずる公的な地位を有する者（認定難民、補完的保護対象者など）、認定難民等の家族（子など）、および国際的保護を要する難民認定申請者が対象で、いずれの場合も日本において中長期の在留資格を有する（取得する見込みがある者も含む）ことが条件です。

「フィロクセニア（φίλοξενία）」とは「旅人への愛・もてなし」を表すギリシア語で、新約聖書からとられています。

旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。
ヘブライ人への手紙13:2

奨学金の支給額は年間120万円以内で、原則として卒業（修業年限）まで支援します。今回の採用定員は2～3名です。

日本での自立のために教育を希望しながら、経済的にそれが難しい、という難民の方々の進学・学業継続を支援いたしますので、ぜひご応募ください。また対象となりそうな身近な方にご紹介ください。

なお奨学金を受給するためには選考や審査があります。詳しくはJELA公式ウェブサイトをご覧ください。



制度の詳細、
募集要項は
QRコードから

難民シェルター「JELAハウス」 管理人募集！ JELAが都内で運営する難民のためのシェルター（女性・母子専用）の住込み管理人を1名募集しています。対象は原則女性のみ（夫婦応相談）。
業務内容：入居者の生活指導、緊急時の初期対応等。謝金あり（毎月支給）。家賃・水道光熱費無料。

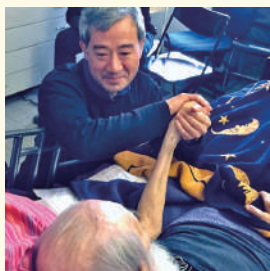
お問い合わせは
電話 03-3447-1521
または
右のQRコードから



JELA 秋のチャリティ・イベント 『人生の最期に、何を語り合えるのか』

今秋、全米認定チャプレンとして活動される岡田圭氏をスピーカーにお迎えして、下記のようにチャリティ・イベントを開催します。昨秋9月に出版された著書『いのちに驚く対話』

(医学書院)は、早くも日本のスピリチュアル界、ホスピス・緩和ケアなどの分野で大いに注目されています。岡田氏が著書を通して投げかけた、「最期」ということの多様な見方、そこで起きる対話、言葉をどう意識し理解できるか、という問いに対し、岡田氏とともに立ちどまり考える時を持ちませんか。



「誰が何を語りたいのか」

語りを聴くこと、語ることの交流が、どう豊かになるのか
何が心に残る気づき(意識の覚醒)や物語になり

分かち合う時がどう語り継がれて

人の人生の見方を多彩に広げてくれるか

今大切なこととして思っていることを話して

皆さんの思いを招きたいと思います。(岡田圭)

◇岡田圭氏 プロフィール

ニューヨーク生まれ、金沢市育ち。上智大学外国語学部ポルトガル語科を卒業後、1982年にロータリー財団奨学生として渡米。美術専攻でニューヨーク市の美大 School of Visual Arts を卒業後、ポストモダン・ダンサーたちとの舞台芸術創作を経て、ユニオン神学校卒(神学修士) Union Theological Seminary。現場教育の授業で臨床チャプレンの仕事に興味を持ち、臨床研修 CPE (Clinical Pastoral Education) を市内数力所の病院で終了。専門チャプレン協会 Association of Professional Chaplains の全米認定資格を所得。チャプレンとしてコーネル大学医療センター小児科「エイズの子供たちのためのプログラム」クリニック、HIV キャリアのホームレス療養施設Housing Works, Inc.での勤務を経て、2006年よりニューヨーク訪問看護サービスVisiting Nurse Service of New Yorkホスピス緩和ケアでスピリチュアルケア・カウンセラーとして勤務。2021年末、終末期スピリチュアルケア・プログラム・マネージャーとしての職務から退職。現在、コロンビア大学の学術集会「死に関するセミナー」準会員、国際スピリチュアルケア協会(スイス、ベルン大学) 会員、臨床スピリチュアルケア協会(PASCH)顧問。

◆◆イベント概要◆◆

講 演：『人生の最期に、何を語り合えるのか』

講演者：岡田圭氏

日 時：2025年10月17日(金)

午後1時30分開場 午後2時開演

会 場：JELAミッションセンター・ホール

(東京都渋谷区恵比寿1-20-26)

入場無料(当財団公益目的事業へのご寄付を承ります)

プログラムの詳細はウェブサイト、ブログで公開します。
どうぞお楽しみに。

支援者一覧 (2025年3月1日～6月30日)

青木孝士/秋吉亮/浅野圭佑/阿部光成/石原京子/井上新/岩越優子/遠藤邦子/大谷忠雄/柿沢純江/片岡光夫/片山良明/勝部久子/河合暁彦/河野悦子/京谷信代/金城香世/グリバ・ローザ/グレイ恵子/小島拓人/古庄理世/小林勝/小松由美/佐伯鎮子/境田伸弘/佐瀬萬亀/貞光攸子/佐野友美/霜尾閑子/深川ひろみ/高橋竜太/谷口美樹/辻裕子/寺澤陽子/鳥飼勝隆/永瀬安恒/西垣親子/野上きよみ/野口久志/原怜子/福島知恵子/福地明子/藤井たかね/藤本敬子/淵田康穂/古屋四朗/保坂和子/間瀬啓允/松岡俊一郎/松下淳子/水口博幸/南谷なほみ/光永尚生/南節子/森保宏/山口京子/吉田万里子/CRESCENT BAKERY/CRM/恵比寿聖書ホーム/グレイ合唱団/小城ルナ/こども園/聖書ホーム委員会/新潟のぞみルナ教会/クリナ会/ハーベスト・タム・ミストリズ/バプティスト・ハブゆあら/バプティスト・ハブを学ぶ会/Aura*/JELC神水教会/JELC玉名教会/JELC天王寺教会/教会学校/JELC横須賀教会 (以上順不同・敬称略)

ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせください。

最終回

川柳ひろば 入選句発表!

当財団の古屋四朗理事長により次の三句が選ばれました。今回は偏奇庵さんが最優秀に選ばれました。
おめでとうございます!

<最優秀句>

物忘れ功德は階段昇り降り (偏奇庵)

<優秀句>

未練あり見るべき程のこと尽きず (蕩尽坊)

カーナビに思わずハイと返事する (呆楽)

今回を持ちまして「川柳ひろば」を終了することいたしました。十数年に渡りご愛顧くださり誠にありがとうございました。(川柳ひろば管理人 奈良部 慎平)

編集後記

鮮やかな濃紺の団体名を貫く閃光の十字架。見て、すぐに好きになりました。「キリストの愛をもって隣人に仕える」という団体の使命を潔く体現していると感じたからです。事実、JELAはこの使命に突き動かされて、多くの分野の事業に取り組んでいます。ゆえに、折に触れて、ではこの「愛」とはいったいどんな愛なのか、という再確認が必要になるのだと思います。イエス・キリストがいのちを捨ててまで示した愛ですから、その解釈は十人十色であって良いという人間都合に陥らないように気をつけたいところです。また、AをB、BをCと伝えてしまったら、巷の伝言ゲームの喜劇どころではない結果を生むことでしょう。毎年多くの方がJELAの事業に関わり、奉仕者として大きく成長されています。また、私たちの働きを必要としている人々にも出会います。そうした人々に伝えるべき言葉、愛という宝が私たちに託されています。このことが、現場で働く職員の実動力となっています。(渡辺薫)